

### 輸送 オープンアクセスは地歩を固めつつある

原題：Open access gains ground  
誌名：RGI：Railway Gazette International Vol.173 No.1 (2017-1) pp.28-31

オープンアクセス（第三者運行事業者への路線開放）のインターシティー旅客列車は、ヨーロッパにおいてはまだ一般的とはいえません。しかし幹線で地歩を固めた新規参入事業者はその翼を広げつつあります。第3次鉄道パッケージにより2010年に国境越えのオープンアクセスに市場が開放され、その後の国内路線での参入を含め、現在10数社が運行しています。



出典:Railway Gazette International

イタリアの高速オープンアクセス用非振り子式ペンドリノ車両

### 車両 低コストの列車衝突防止装置

原題：Avoiding collisions at low cost  
誌名：RGI：Railway Gazette International Vol.173 No.2 (2017-2) pp.36-37

昨年発生した南ドイツの単線区間における正面衝突事故のように、運転保安システムを設置してもヒューマンエラーによる事故の可能性は残ります。これについて、ドイツの航空研究機関で10年以上の研究により、低コストで運転保安システムをバックアップする衝突防止装置が開発されました。このTrain-CASシステムは車上装置相互間の無線により衝突を防止するもので、地上設備が不要ことが特徴です。現在、メーターゲージのハルツ鉄道で使用されています。



出典:Railway Gazette International

Train-CASシステムが装備されたハルツ鉄道の蒸気機関車

### 車両 ウィーンの新しいトラムFlexity

原題：Wien joins the Flexity club  
誌名：MRI：Metro Report International Vol.30 No.4 (2016-12) pp.34-36

2015年に契約が結ばれたウィーンの新しいトラムの概要が2016年10月に発表されました。D形と名付けられるこのトラムは、ボンバルディアでFlexityと呼ばれる車両です。5車体で長さは約34m、自重は44tです。両先頭の車体に動台車、中央の車体に従台車が設けられます。1つの主電動機が1つの車輪を駆動する方式で、編成全体では50kW×8台=400kWの出力となります。ドアの高さはレール面から215mmという低床構造で、2018年に走行試験が始まります。2026年までに119編成が納入される予定であり、契約金額は4億3100万ユーロです。



出典:Metoro Report International

Peter Döllmanの設計によるウィーンのD形トラム

### 安全 駅における安全性の最前線

原題：Station safety at the forefront  
誌名：MRI：Metro Report International Vol.30 No.4 (2016-12) pp.32-33



出典:Metoro Report International

旅客輸送の増大にともない、運輸当局および事業者は混雑時の駅における安全性や顧客サービス向上を目指しています。このためのさまざまな試みが各国でなされており、近年はデジタル標識やバーチャルアシスタントなどの導入により乗客のスムーズな流動に効果を上げています。バーチャルアシスタントはほかのデジタル標識などに比べ、乗客の行動に10倍もの影響を及ぼすことが明らかにされました。

ロンドンのキングスクロス駅に設置されたバーチャルアシスタント



WRT (海外鉄道技術情報) は海外主要鉄道誌の記事抄訳を含め、海外の最新の鉄道技術情報をタイムリーに紹介する季刊誌です。ここに紹介した記事はその一部です。

⇒新刊案内、バックナンバーは総研HP (www.rtri.or.jp) をご覧ください。

⇒問合せ (研友社) TEL: 042-572-7157 HP: www.kenf.jp